

2019年12月6日
酪農学園大学
学長 竹花一成

2019年度酪農学園フィールド教育研究センター外部評価実施要領

1. 外部評価の目的及び対象部所

本学が作成した自己点検・評価報告書の妥当性と信頼性を検証するために、学外有識者で構成する外部評価委員会を設置し、自己点検・評価報告書に対する外部評価を行うことで、今後の教育研究、業務運営に役立てることを目的とする。

酪農学園フィールド教育研究センター（FEDREC）の運営について、自己点検・評価を実施、外部評価による検証及び評価に基づき、今後の活動内容の質的向上、改善および一層の充実に資するものである。

2. 外部評価スケジュール

- 2019年10月1日(火) 外部評価委員の委嘱
- 2019年10月21日(月) 外部評価委員事前打ち合わせ（酪農学園大学にて）
（外部評価委員顔合わせ、外部評価項目、スケジュール等の確認）
- 2019年11月29日(金) FEDREC 自己点検・評価報告書を学長へ提出
- 2019年12月6日(金) 自己点検・評価報告書を外部評価委員へ配付
- 2019年12月19日(木) 外部評価委員会の開催（本学にて）
（自己点検・評価のヒヤリング、評価会議、施設見学）
- 2020年1月17日(木) 外部評価委員会より学長に評価結果を提出

3. 外部評価委員

- ①小林 紀彦 (有)小林牧場代表取締役社長
- ②中田 和孝 中田牧場代表
- ③西村 直樹 道総研十勝農業試験場長

4. 外部評価委員会

- (1) 2019年12月19日(木) 10時～16時 (施設見学を含む)
- (2) 外部評価委員の中から委員長を互選する。
- (3) 委員会では自己点検・評価についてヒヤリング等を実施する。
- (4) 評価結果は、委員長が各委員の評価を総合的に勘案し総評を作成、学長に提出する。

5. 外部評価項目及び評価方法（案）

別 紙

6. 資料の配布

外部評価委員会の開催にあたり、あらかじめ評価対象事項に関する自己点検・評価書及び関連資料を外部評価委員に送付する。（12月上旬）

7. その他

外部評価委員の委員会出席にあたって、本学規定に基づく旅費及び謝金を支給する。

以上

(別紙)

酪農学園フィールド教育研究センターの概要

酪農学園フィールド教育研究センター（以下、FEDREC という。）は、本学園の建学の精神と教育理念に基づく実学教育の推進と教育の質を保証する場を提供することを目的として設置されました。関連する教育研究の充実化に寄与するため、旧附属農場（乳牛）、元野幌農場（肉牛）、家畜センター（豚、鶏、めん羊）および作物実験圃場などの施設を一元的に再編整備した結果、2018 年度には 1 年生全員（約 750 人）が受講する「健土健民入門実習」をはじめ、60 科目で履修学生数 4,231 人の教育利用がありました。また、44 研究室で 95 課題の研究利用がされました。地域貢献としては、市民や関係機関など幅広い層から施設見学依頼があり、年間 88 件、総人数 1,110 人を受け入れました。

FEDREC の運営は、教員組織である領域（酪農、肉畜、作物の 3 領域）と主に施設および家畜などの管理を行う組織であるステーション（酪農、肉畜、作物の 3 ステーション）によって行われています。また、3 ステーションの事務管理部門として農事課を設置しています。

FEDREC の運営に際しては、フィールドを活用した教育研究に関わる計画の立案、調整や運営などを検討するための運営委員会および各領域会議、教育研究のための圃場および施設管理などを検討するための FEDREC 業務会議およびステーション業務会議を設置しています。領域は従来のように教員が固定的に配置されることなく、大学と高校の教員は必要に応じて横断的に集結・議論し、教育と研究の企画やその調整を行っています。3 領域ではそれぞれの運営方針に則った運営がされているステーションを活用し、教育研究を展開しています。

FEDREC では、ステーション全体を「循環農法」の一つの実践モデルとし、酪農、肉畜および作物の各ステーションをその中のサブステーションとして位置づけています。

酪農生産ステーションは、3 つの飼養形態（つなぎ、フリーストール、ロボット）を有し、草地生態系における「土－草－牛」の物質循環を重視した酪農生産を実践するため糞尿の堆肥化により化学肥料の削減を図るとともに、作物生産ステーションの圃場副産物の飼料としての利活用も推進しています。

肉畜生産ステーションは、「循環農法」の一形態として、ステーション内で発生する堆肥や処理汚水を利用して生産された自給飼料を最大限利用するとともに、食品残渣等を利用したエコフィードや、作物生産ステーションの作物残渣等圃場副産物の活用により濃厚飼料削減に努めています。

作物生産ステーションは、酪農および肉畜生産ステーションとの連携により、堆肥等の有効利用による「物質循環」を基本とした作物生産を行っています。一部の圃場では、有機物の供給を受ける一方で、圃場副産物の一部を飼料として提供しています。

FEDREC では、粗飼料自給率向上のための土地改良を計画的に実施する他、ステーションの枠を超えた共同作業を推進することで、生産性の向上を図っています。今後は、施設・機械の適性更新や技師の人員体制の強化などの課題に取り組み、本学園の強みとなる恵まれたフィールドを生かした教育研究が展開できる「場」の充実をさらに推進していきます。

以上

FEDREC 外部評価項目および評価方法（案）

【1】評価項目

- 項目 1 運営方針
 - 1-1 FEDREC 運営方針
 - 1-2 3ステーション運営方針
- 項目 2 運営組織
 - 2-1 組織体制
 - 2-2 人員体制
- 項目 3 運営内容
 - 3-1 圃場規模
 - 3-2 圃場管理
 - 3-3 飼養規模
 - 3-4 飼養管理
 - 3-5 施設機械
- 項目 4 運営収支
 - 4-1 予算管理
 - 4-2 生産物販売・副産物利用
 - 4-3 収支
- 項目 5 安全管理
 - 5-1 学生の安全
 - 5-2 作業者の安全
 - 5-3 防疫・鳥獣害管理
- 項目 6 利活用状況
 - 6-1 教育への利活用
 - 6-2 研究への利活用
 - 6-3 成果の社会還元
 - 6-4 社会貢献

【2】評価方法

評価は、自己点検・評価資料の項目ごとに、設定された基本的な観点について、以下の4段階で評価する。併せて、総括的な評価（総評）を行う。

評価基準：4（適切）、3（ほぼ適切）、2（やや不適切）、1（不適切）

【3】評価の観点

項目1 運営方針

FEDREC と3ステーションの運営方針を評価する。

- 1-1 FEDREC 運営方針は、学園の理念に合致した FEDREC の運営方針となっているか
- 1-2 3ステーション運営方針は、学園の理念に合致した3ステーションの運営方針となっているか

項目2 運営組織

FEDREC の組織体制および人員体制を評価する。

- 2-1 組織体制 場を提供するための組織体制として機能しているか、高大連携が図られる組織体制になっているか、ガバナンスが担保できる組織体制となっているか
- 2-2 人員体制 場を提供するために適切な人員体制となっているか、高大連携が図られる人員体制になっているか

項目3 運営内容

FEDREC の圃場規模および圃場管理、飼養規模および飼養管理、施設機械の管理運用を評価する。

- 3-1 圃場規模 適正な圃場規模であるか
- 3-2 圃場管理 運営方針に則した圃場管理がされているか、効果的効率的な管理がされているか
- 3-3 飼養規模 適正な家畜種（乳牛、肉牛、豚、鶏、羊）および飼養頭数であるか
- 3-4 飼養管理 運営方針に則した飼養管理がされているか、効果的効率的な管理がされているか
- 3-5 施設機械 必要な施設機械は整っているのか、適切に施設機械の運用はされているか、適切に施設機械の更新は図られているか

項目4 運営収支

FEDREC の運営収支を評価する。

- 4-1 予算は適切か 予算執行は適切か
- 4-2 生産物、副産物は適切に販売または利用されているか
- 4-3 収支は適正か

項目5 安全管理

FEDREC の安全に対する取り組みを評価する。

- 5-1 学生の安全 安全な学生利用を確保するために、予防管理と緊急時の危機管理体制等を講じているか
- 5-2 作業者の安全 安全教育および安全確保は、図られているか

- 5-3 防疫・鳥獣害管理 防疫のマニュアルは適切か、防疫はマニュアルに則して適切に実施されているか、鳥獣害対策は適切に実施されているか

項目6 利活用状況

FEDREC の利活用状況を評価する。

- 6-1 教育への利活用 十分に教育活用されているか
- 6-2 研究への利活用 十分に研究活用されているか
- 6-3 成果の社会還元 得られた教育研究成果は社会還元されているか
- 6-4 社会貢献 エクステンション活動はされているか

【4】総括的な評価